



明
 參
 宮
 名
 所
 撰
 人
 五
 二

ル 4
 4599
 4



平

門 凡 4
號 4599
卷 4.1

伊勢參宮名所圖會卷之五

目錄



一殿直會殿	稱宜宿館	中宮内	一鳥居	手水場
御興宿	巖社遙拜所	二鳥居	荒祭宮遙拜所	廳舎
第四御門	忌火屋殿	外宮遙拜所	冠本鳥居	外幣殿
八重拂	玉串所	石壺	第三鳥居	
内宮正殿	齊王候殿	宿衛殿	神路山	
百枝松	西鳥居	天津神社	八十末社	
奉宮右殿	興玉拜所石壇	御稻御倉		

早稲田 大學 圖書館
昭和 35. 1 28 受
藏 書

一 元 社 裏 門 小鳥居
小玉垣 門 小端垣 門

御 池

由 貴 殿

八十鈴川橋

八百會遙拜所

落合川原

山 社 社

一の 漱

組板石 船面石
獅子鼻石

瀧 祭 窟

家立茶屋

荒 祭 宮

川島社遙拜所

酒 殿

僧尼拜所

瀧 祭 宮

河 合 社

石井社

三 方 石

合 坂

醍 石

惠 利 原

同宮 若 西 遙拜所

樓 宮

朝 庭 遙拜所

風 宮

瀧 宮 並 宮

御 殿

荒 本 田 氏 社

松 坂

後 田 彦 森

鼎 石

一守田 巖 笹原 炭
弘法 茶 屋 天狗 岩

朝 熊 嶽 岩舟 舟天
万倉丹 下乘

徳 三 社 子安 地 産 阿弥 陀 尊 二王 門 連珠 橋 連珠 池 雨室 臺 子 宮
明星 水 手向 地 産 徑 峯 龍 池 寺 院 芭蕉 塚 稻 倉 社 舎 利 塔

用 山 堂 东岳 和 尚 像 朝 熊 村 永 松 庵 秋 田 殿 之 女 実 秀 墓 後 原 右 馬 之 墓

小 朝 熊 社 新 熊 森

登 川 村 熊 海 社

山 田 原 西 經 法 師 隼 人 古 墳

濱 萩 鷺 島 丸 山 御 産 石 龜 小 松

三 津 浦 三 津 村 出 口 村 氏 社

二 新 茶 屋

常 村 子 通 村 箕 曲 氏 社 天 社 社

御 食 社 三 枝 橋 村 大 津 社

大 湊 熊 取 湯 水 志 堂 屋 社 八 幡 宮 今 一 色 村

勝 峯 山 金 剛 證 寺

義 智 佩 刀 文 殊 堂 求 聞 持 堂 極 樂 樓

破 石 鏡 宮

五 峯 山 密 巖 寺

伊 勢 三 郎 宅 地 石 礎

音 岳 山

尾 瀨

神 社 村

小 林 社 御 後 所

高 城 濱

赤城溪

清渚

河邊殿

立石橋

二見浦

興玉石

江村

湖青山大江寺

江神社

松下

福民社

舟絵松

嶼島巡覽

許母利神社

波多良寺

後勝

小濱

由曾津

宿浦

津津佐

阿曾浦

日和山

佐田溪

多羽浦

波野地溪

酢我橋

佐良御橋

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

相賀

館町橋の東の所なり

宜敷戒糸籠の館舎也

神庫 宿鉦の南なり

徐宜宿鉦 一の毛居九 十負の徐

一鳥居

河宮の入口に神宮一の鳥居ありは十三丁と延喜式に七里とあり一六丁里の樹をたてたせり

手水場

一の鳥居より入て右の方より十段川の流れて凡の宮の木の流とて後石の方の流とての落合にけいとを

〇巖社

遠拜石 後石のふ宮の若母の神社とて宇治の若母岡あり本中

高水上命

大水上 此神社の宮中の神あり依二一の宮とて

二名の居

一の毛居の勅後奉向の所此なりと大庭御塩湯を献じ

廳舎

二の毛居あり

一殿

大なるの九 此殿の勅後の直會殿也二殿といふ舎院の第一殿といふなり

外宮

うてり日を又大殿九丈殿とて則九丈殿の二宇相並ぶ古書に此殿

五間

とあれども今の三間と柱十本あり十柱殿と俗稱せり

忌火屋殿 大神宮の所饗を調へ奉申す十三度けあてはくは西宮の所饗

殿の外宮にあり外宮の初文は休舎といふも内宮の初文は

荒祭宮の遙拜あり 忌火屋殿の東の石壇あり 荒祭不参時宜しく

外幣殿 御輿宿 大なるの右 齋宮輿をとく先給ふ令又王車乃

豊受神石疊 冠本の毛居の南の方なり 昔の心殿の南あり遠の又十段川

の三股あり 其中の洲に石疊をたてて是本の橋を架

三節の祭とて神饗供進せり 塔ありのくまは流きて後今のあり

冠本鳥居 河宮の入口に神宮一の鳥居ありは十三丁と延喜式に七里とあり一六丁里の樹をたてたせり

齋王候殿 河宮の内なる母の外東の方なり 女王候殿 齋王候殿東西にありし

石壺 井田の内左右あり 〇 徐宜十載 井田内人の事をいふ

昔ハハツの石壺ありしとて荒本田延祿の初也

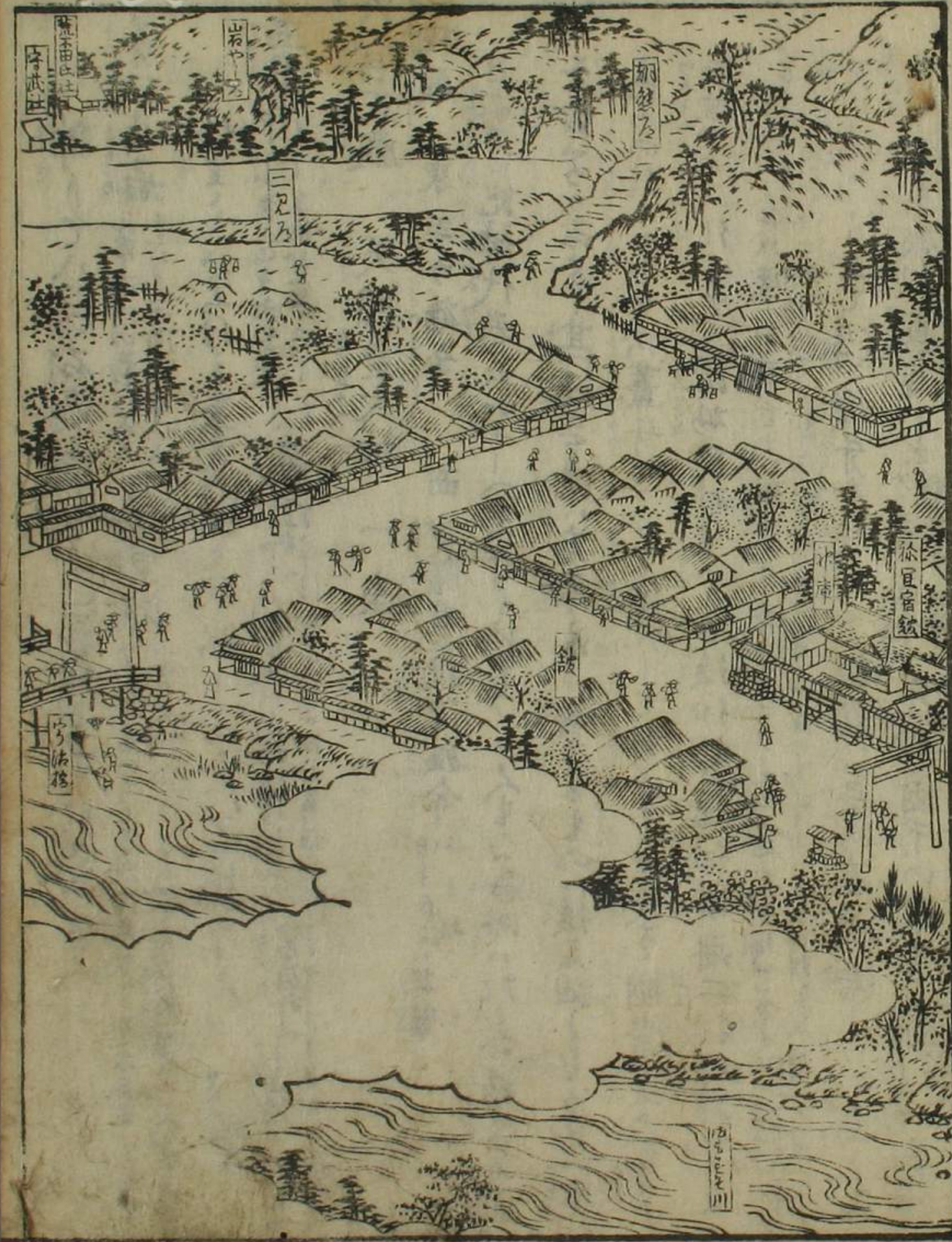




其二

新宮
大のそつり
勅使とそつり
まゝのそつり
橋のそつり
新宮
三つとそ川の
そつり
そつり
そつり
そつり





神りてハツの石壺をもちりて居居る所の内宮の宮人

第三鳥居 玉串神門の宮にあり ○八重井 山田郡内人の石なる板の形に似て板の形に似て

玉串神門 宮三の宮の西 ○蕃垣神門 玉串神門の西 ○堀垣神門 玉串神門の東

内宮正殿 天照皇大神 一座

相殿 東 手力雄命 西 万幡豊秋津姫命 日本書紀に於て

日本書紀神代卷云 天ろく地ろく人ろくきりたろく 其の初めの先天子なり濁るもの後地たる其一中を合ふるかきく其清きりの先天子なり濁るもの後地たる其一中

ある小二枚の神の乃男とらひ女とら其元の處一ツあり是を合せて始て造合てま婦とあり 三つの神の乃男とら其元の處一ツあり是を合せて大八洲を生じ



うさぎ
 日老の孫 石使の娘 此の妙ひ 八十島の神 天の安河系 集會
 して其誘へき方便を 思兼神に計て 勢ふたり 俗に云ふ者なり 常世乃
 長鳴鳥は長鳴せり 勢ふたり 東方明く 手力雄の神を磐戸の側に立
 せ 天降見屋根命を玉命の香土の生坂樹を救百株拯く
 上の枝は多く瓊の統さるる八咫鏡中の枝の八咫鏡を掛け下の枝は
 青幣白幣を懸て天の細女命茅纏の矛をおせ若戸の若に例
 優 瓊衣根命河内平原の春日の若大玉の太和子市郎と名なりて共い居かの若かり
 瓊衣根命の其かりを救護するも神若も神若も若かりて 佐藤奇哉かたき地を
 押連きのため 他優のワサハサキの若かりて 神若も神若も 又賢本と以
 れむゆへにヨキリ 誘ひをかり今も若の若に樂に 神若も神若も 又賢本と以
 鬢髪と 薙髪を以て手繼と 一カケの薙髪を多くたき西復槽とて
 ろして神明馮謫とウケと槽をうむひにうまき今捧巫女が引あてて神
 のひらりて人ぬのひらりととて一の書に云ひ六張をらるる琴とせり 此は神々の
 の泥にうらふ又ウケとは折るひのうらふ今俗に云ふ折るひにせり 此は神々の
 さんば今若戸の若よりうらひをよきまひとての書を捧ぐ 此は於天照大神
 磐戸を細く開きて穴視せりと手力雄其御手を奉て引出しなり 中

瑞珠盟約

天照大神の尊み蓋鳥尊の生使勇
悍にして甚なるを凡宇宙も君
として條ひて之を二神の勅り
より根の國へ送すり後鳥尊を
神の尊高天原の神の君と見へ
後永く退くを云々
て天より流りて又盟ひを云々
を神と尊の親を唱言て同心瑞珠婚
市杵媛の三女を生むる尊を神の神
の禮とて正哉吾勝天徳日天
天根活津差後於神樟日の五男を
生したまふ
天徳の尊代りて
人の神を殺す事あり



臣の神より端出繩を曳て復ひく
事蓋鳥尊の發を授え凡を授く
根の國へ送すり後鳥尊を
神の尊高天原の神の君と見へ
後永く退くを云々
て天より流りて又盟ひを云々
を神と尊の親を唱言て同心瑞珠婚
市杵媛の三女を生むる尊を神の神
の禮とて正哉吾勝天徳日天
天根活津差後於神樟日の五男を
生したまふ
天徳の尊代りて
人の神を殺す事あり



伊弉女大倭姫命是みかゝりて義和の御諸の宮より諸國順覽ある遷幸乃
て經ぬ日御宇二十六年丁酉十月甲子宇治郷又十珍川の邊に
移りたり相殿より天照屋根命を王命まじりくたり其後外宮御鎮
座の御此二神を外宮の西相殿又定ぬ終る〇正殿と藝の宮又十珍の宮
磯の宮とも朝日の宮ともまた一説破の宮の齊宮の事也

伊弉女御日の宮の宮より一統のとくたつ世とありん
神の代のまや巽のうらむ都のを今朝霞のうら
巽杖を執りてむ入と神踏山月り玉懸ひうりたるん
宮柱まはこよりいの秋乃月又巽度うらぐりあふたれ
とやらちる月日のうけふつてて天照神とたのむむをうぞ
若くはちる天照神のまはしあはひうりてそよ秋の夜乃月
久くこれ天照神のゆふらうらうけて巽世とこひまらうらうん

藤倉 右大臣
度會 元長
荒木田 氏忠
空家

拾遺記中

石窟幽居



神路山 一名大山 天照山 宇治山 神路日くもり

神路の日は天照靈照ふみ比 千載集圓位法師 宇治の山成信くもり 後伴勢圓二の浦の寺ま

ふく入く神路のやを 吾もば入くもり松風 吾枕後鳥羽院御製

かじはくそむらんまでももろく丸よ天照られ杖の疾乃月

百枝松 内宮神本本て神路の松

後波もこもをそ川の末かれやまの松の百枝 後成

東宝殿 西宝殿 正殿の東西あり 宍衛殿 本宮の傍に昔に宮ありし處に

八十末社 本社の神末より右左に並ぶも外宮の末に云々あり

一 村澤神社 本社の神末より右左に並ぶも外宮の末に云々あり

三 橋大カ自神社 本社の神末より右左に並ぶも外宮の末に云々あり

五 大山祇神社 本社の神末より右左に並ぶも外宮の末に云々あり

六 川原神社 本社の神末より右左に並ぶも外宮の末に云々あり

七 伴野津神社 本社の神末より右左に並ぶも外宮の末に云々あり

八 伴野津神社 本社の神末より右左に並ぶも外宮の末に云々あり

八久具都社 不奈多都都命 九大神河教河社 不奈大神河教河社
十久々都彦社 不奈多具都彦命 十一修加利比女社 不奈多修加利比女命
十二宇治乃奴鬼社 不奈多宇治乃奴鬼命 十三御裳濯比賣社 不奈多御裳濯比賣命
十四湯田社 不奈多湯田命 十五宮比社 不奈多宮比命
十六朝熊水社 不奈多朝熊水命 十七寒川姫社 不奈多寒川姫命
十八荒茶姫社 不奈多荒茶姫命 十九大神河滄川社 不奈多大神河滄川命
二十石井社 不奈多石井命 廿一八束徳社 不奈多八束徳命
廿二堅田社 不奈多堅田命 廿三眞名子社 不奈多眞名子命
廿四葦原社 不奈多葦原命 廿五若虫社 不奈多若虫命
廿六歲社 不奈多歲命 廿七毛受女社 不奈多毛受女命
廿八宇加御意社 不奈多宇加御意命 廿九大歳社 不奈多大歳命
三十大神河社 不奈多大神河命 卅一依媛社 不奈多依媛命
卅二棒原社 不奈多棒原命 卅四栖長姫社 不奈多栖長姫命

卅五阿波美后社 不奈多阿波美后命 卅六空治
卅七攝玉社 不奈多攝玉命 卅八矢野波々本社 不奈多矢野波々本命
卅九大與彦社 不奈多大與彦命 四十園相社 不奈多園相命
四十一大國玉比女社 不奈多大國玉比女命 四十二鴨社 不奈多鴨命
四十三江社 不奈多江命 四十四
四十五依見津姫社 不奈多依見津姫命 四十六高天原社 不奈多高天原命
四十七子守社 不奈多子守命 四十八久麻良比社 不奈多久麻良比命
四十九緒呂曾社 不奈多緒呂曾命 五十鴨下社 不奈多鴨下命
五十一長口女社 不奈多長口女命 五十二藤海社 不奈多藤海命
五十三長山社 不奈多長山命 五十四懸社 不奈多懸命
五十五大山社 不奈多大山命 五十六津布良社 不奈多津布良命
五十七那自賣社 不奈多那自賣命

上二見也。五十八魚見神社。石巻市月夜見命を祀る。五十九村田比女神社。石巻市村田比女命を祀る。六十川合神社。石巻市川相間辺に在り。六十一修佐奈彦神社。石巻市修佐奈彦命を祀る。六十二國津神社。石巻市國津に在り。六十三坂手國生神社。石巻市坂手に在り。六十四新川神社。石巻市新川に在り。六十五大士河祖神社。石巻市大士河に在り。六十六佐々牟江神社。石巻市佐々牟江に在り。六十七荒原神社。石巻市荒原に在り。六十八速川比古神社。石巻市速川に在り。六十九獲國生神社。石巻市獲國に在り。

己上六十九社本宮の東南の角より俗に奥のまろと云

西鳥居。石巻市荒原西門にて。天津神社。石巻市天津地蔵を祀る。本宮古殿。石巻市本宮古殿に在り。沖稻倉。石巻市沖稻倉に在り。又沖橋殿と稱せしむ。石巻市沖橋殿に在り。

○北瑞垣門。此門より荒原の宮へ至る間東の山中より一ツ乃。此門より荒原の宮へ至る間東の山中より一ツ乃。此門より荒原の宮へ至る間東の山中より一ツ乃。

○北鳥居。荒原の宮の北門なり。○小玉垣門。荒原の宮の北門なり。

荒原の宮。石巻市荒原に在り。此宮の北門より荒原の宮へ至る間東の山中より一ツ乃。荒原の宮の北門より荒原の宮へ至る間東の山中より一ツ乃。荒原の宮の北門より荒原の宮へ至る間東の山中より一ツ乃。



新後拾遺
 後亮赤巻内臣
 此圖其符を
 前より一はあは
 してさう人の國を
 摸せりゆきまは
 周記をくまうは
 して蔵者の教本
 つそそを改む尚
 後日の改刻
 見れば



御
 遷
 宮



御池 巡り百八十間あり遷拜石の
○河島神社 藤原附屬の社

遷宮 大石の丸の
不系木花開耶姫命

則小朝熊坐と社此又併せ遷拜と

神風よもやとぞまをせつる橋つらやの表のさるまは

○河原神社 藤原官附屬の社

由貴殿 一殿の

酒殿 酒を造る

此二宮共酒殿の院内之酒殿より天

運ち刀天の逆鋒を納む深秘の者ありとそ又三祭の

御饗み月あり物収むる院之由貴といひ汝清むるの各

朝廷遷拜石 由貴殿の傍

帝を拜しなれりなり

子良館 二の宮

其貝桶の蓋のうらみ双方を後ありて其

附言 慶長十二年國母より内宮子良の殿貝桶一具を賜る

其貝桶の蓋のうらみ双方を後ありて其

神風よもやとぞまをせつる橋つらやの表のさるまは

あはれめやあせぬけけけ

かきつるま

右の例より依て明和のはは

五十鈴川橋長と

橋の前後もをあり

僧尼拜所 又十鈴川を隔て

凡宮 又十鈴川橋より

末社 凡の宮の東南十一社あり

氏社 不系木花開耶姫命

谷山社 不系木花開耶姫命

神社 不系木花開耶姫命

通命社 不系木花開耶姫命

熊淵神社 不系木花開耶姫命

己上十一社

良親親王應下勅書



御老
贖
小屋

所名

八百會造拜所 子良の館の西の 八百万神を拜しなれ
瀧祭宮 兼上別宮 子良館南の道の末 石祭次女神又曰都波神若中
ていし 一より神殿なる石壇の也水の神を崇む 西の館の北は八十餘川
荒れ下りて瀧の別宮にて神位も荒れ宮に付たり 守其神を神位に曰瀧祭宮
不入りて瀧原並宮に不入りては是を尊しと加ふるなり
瀧宮並宮 瀧原の宮也

浪と云はれたる石の岩松瀧の宮も若きと云ふん 西の
今 瀧の原なる川の宮も神なり 松末はくく神は若き浪 為家

河原後所 風の宮の傍より 兼清記云 八十餘川と守其瀧川の落合なる石の神位
瀧祭宮の用也 〇宮のりうの神位はかゝる物なりて神後ありて
瀧祭宮の用也 兼清記云 八十餘川と守其瀧川の落合なる石の神位

所名

落合川原 瀧祭宮の
後門兼集修験の神位は川の月影の基と云ふくまくと云ふと川のうのあいの
川原にけりて云ふなり

月影と云はれたる石の岩松瀧の宮も若きと云ふん 前大僧正 通海

終中宮

河合社 瀧祭宮石壇の南 石祭細川水神後式帳名社十二石の内はく神遷宮の
神位を遷すなり 右記す所の神位は人々のこれより一の石をたてて徐宜の
神位を遷すなり 右記す所の神位は人々のこれより一の石をたてて徐宜の

神馬 〇石の内の神馬二石あり 〇神馬といふは神位より遷らるなり
神を代中遷して今尾張家よりと云ふ代々進らせらるなり
神馬知内人として遷すなり 〇中より遷す今知丁耳は神馬知内人再興ありて

高倉殿 瀧祭宮の神位を遷すなり 〇高倉殿といふは神位より遷すなり
〇高倉殿といふは神位より遷すなり 〇高倉殿といふは神位より遷すなり

山神社 〇石祭宮の東 〇山神といふは神位より遷すなり 〇山神といふは神位より遷すなり
〇山神といふは神位より遷すなり 〇山神といふは神位より遷すなり

石祭神 〇石祭神といふは神位より遷すなり 〇石祭神といふは神位より遷すなり
〇石祭神といふは神位より遷すなり 〇石祭神といふは神位より遷すなり

荒木田氏社 〇荒木田氏社といふは神位より遷すなり 〇荒木田氏社といふは神位より遷すなり
〇荒木田氏社といふは神位より遷すなり 〇荒木田氏社といふは神位より遷すなり

守武神 〇守武神といふは神位より遷すなり 〇守武神といふは神位より遷すなり
〇守武神といふは神位より遷すなり 〇守武神といふは神位より遷すなり

の式をとりむ指のふり中百首の指あり又陣の自筆の指あり
 新路と我くかきしりと思もそのまの風く

元日や新代のこころも抑もりく

一孫
寺武

△内宮集詣終て是より南條雜宮より新集のありみりて三尾より川邊のあり
 新集小屋 新宮山の東の塚原をなかり新集の邊より
 此は納む

一の瀬 これの内宮より新集のあり
 三方石 新集のあり
 松坂 内宮より新集まで一里これより三三町あり
 のかりて
 ○長尾 新集のあり
 ○熊留石 新集のあり
 ○獅子鼻石 新集のあり

猿田彦彦森

大樹の松と
 猿田彦彦松





龍祭高
うら
山田
尾宿
子

合坂 坂より又十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に
此は後田長次神倭姫命と合坂一合坂といひ傳へしを
後田長次神倭姫命と合坂の坂の傍に
龍祭堂 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に

其穴は入り九十間ぐらゐりて瀧は龍祭堂と標石を立てり
家立茶屋 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に
龍石 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に

龍石 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に
龍石 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に

龍石 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に
龍石 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に

龍石 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に
龍石 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に

龍石 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に
龍石 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に

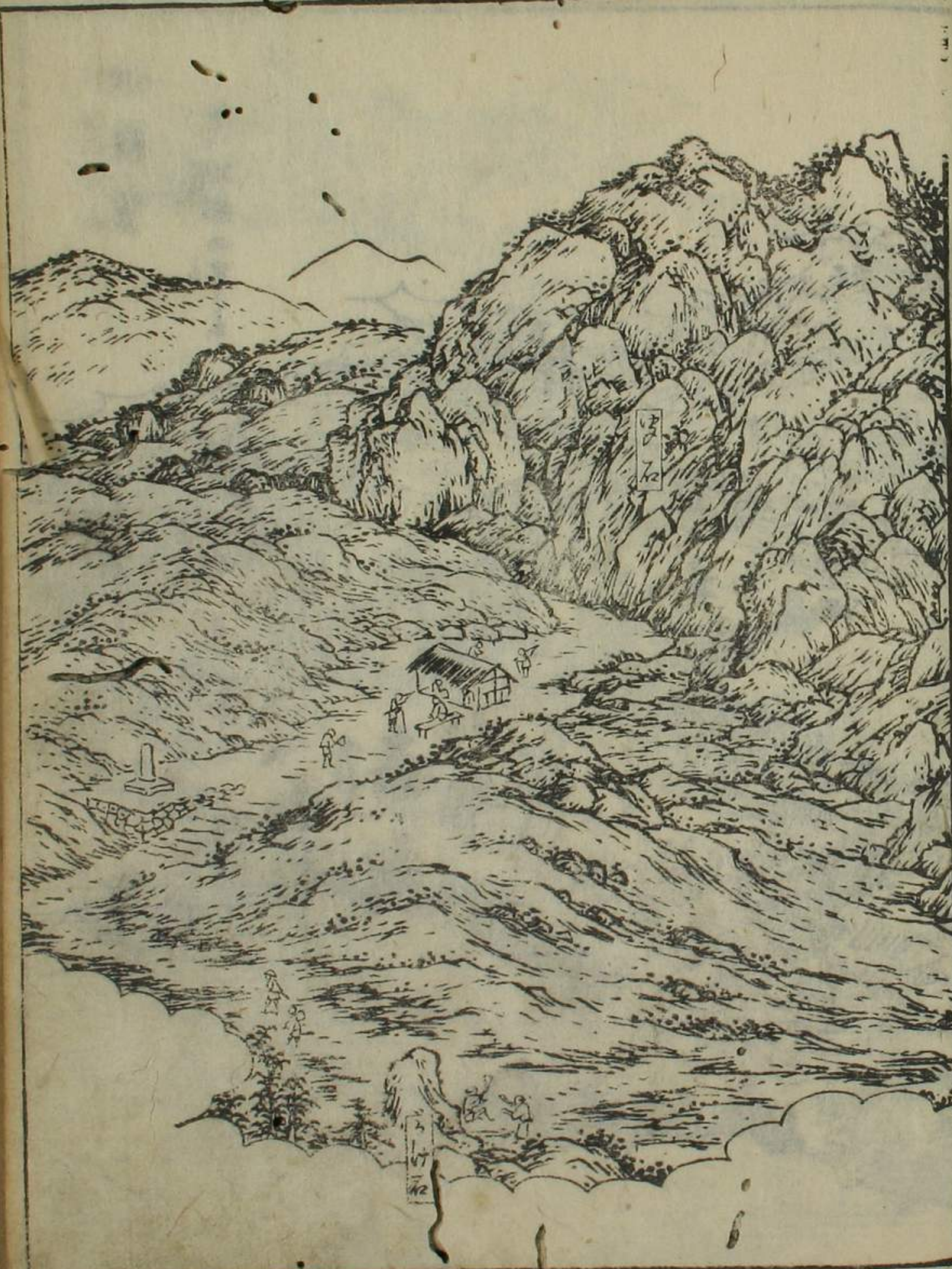
龍石 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に
龍石 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に

龍石 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に
龍石 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に



家立茶屋

後田長次神倭姫命と合坂一合坂といひ傳へしを
龍祭堂 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に
家立茶屋 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に
龍石 合坂より十町餘は龍祭堂ありて是等及茶屋の傍に



鷓鴣石 あまのせと 中名和合山

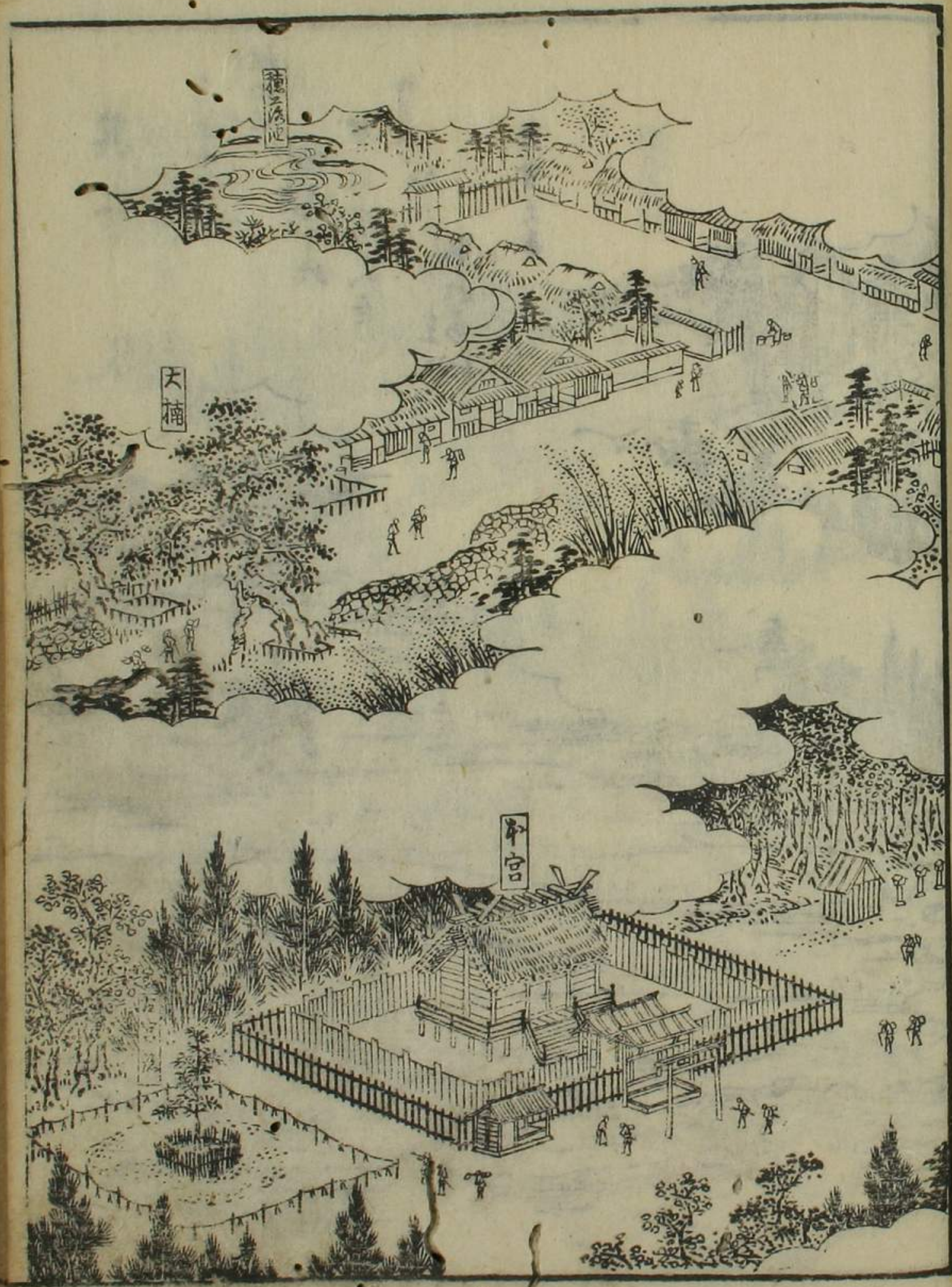
石の透り
石碑あり

うぐいすや内外
まうがみい石

東都大塔
金歡堂
不言

け石井 このへ
阿ん杖の末

天授金井
仲書



いざのこや
伊雑宮
一塔と磯部の宮と云



大歳宮
 飯高宮
 穂高宮
 後園表神社

泉田神社



其二

斗帳百首
 秋の田乃
 穂高神社
 神ありてへを
 地り人
 久
 鶴北多代
 度會え長



惠利原 ○本郷村 惠利原村
又上村と云此亦新熊岳の羽のるあり

倭姫宮 内宮別宮の其一内宮の三皇
倭姫宮三皇之神宮御神座の始神雜の方葦原の中より

大歳宮 或は後辺の高宮と云又後邊の宮とも云系神其那那那なり後を降
を降せし後邊の宮とも云又後邊の宮とも云

飯井高社 系神猿田彦之神
飯井高社系神猿田彦之神は外救主系社也

御田宮 南にあり又川上白古目を撰て回極統
御田宮の南にあり又川上白古目を撰て回極統

橘部嶺 宇治の十十所
橘部嶺 宇治の十十所此より下は二所

笹原嶺 宇治の十十所
笹原嶺 宇治の十十所此より下は二所

弘法茶屋 法泉あり甚
弘法茶屋 法泉あり甚

天狗岩 笹原の山の谷あり
天狗岩 笹原の山の谷あり

朝熊山 嶽 内宮より二十町一丁
朝熊山 嶽 内宮より二十町一丁

此山の高頂に伊勢志摩の境あり金剛證寺も伊勢の地あり
此山の高頂に伊勢志摩の境あり金剛證寺も伊勢の地あり

岩舟辨財天 唐傳の石の方あり堅七尺
岩舟辨財天 唐傳の石の方あり堅七尺

万金丹 世間茶屋と云へは祖の尾張建内海より出り
万金丹 世間茶屋と云へは祖の尾張建内海より出り

下乘 此より内宮より六十町
下乘 此より内宮より六十町

勝峯山金剛證寺 院 禅密兼修あり
勝峯山金剛證寺 院 禅密兼修あり

本堂 九間 本尊虚空藏菩薩
本堂 九間 本尊虚空藏菩薩

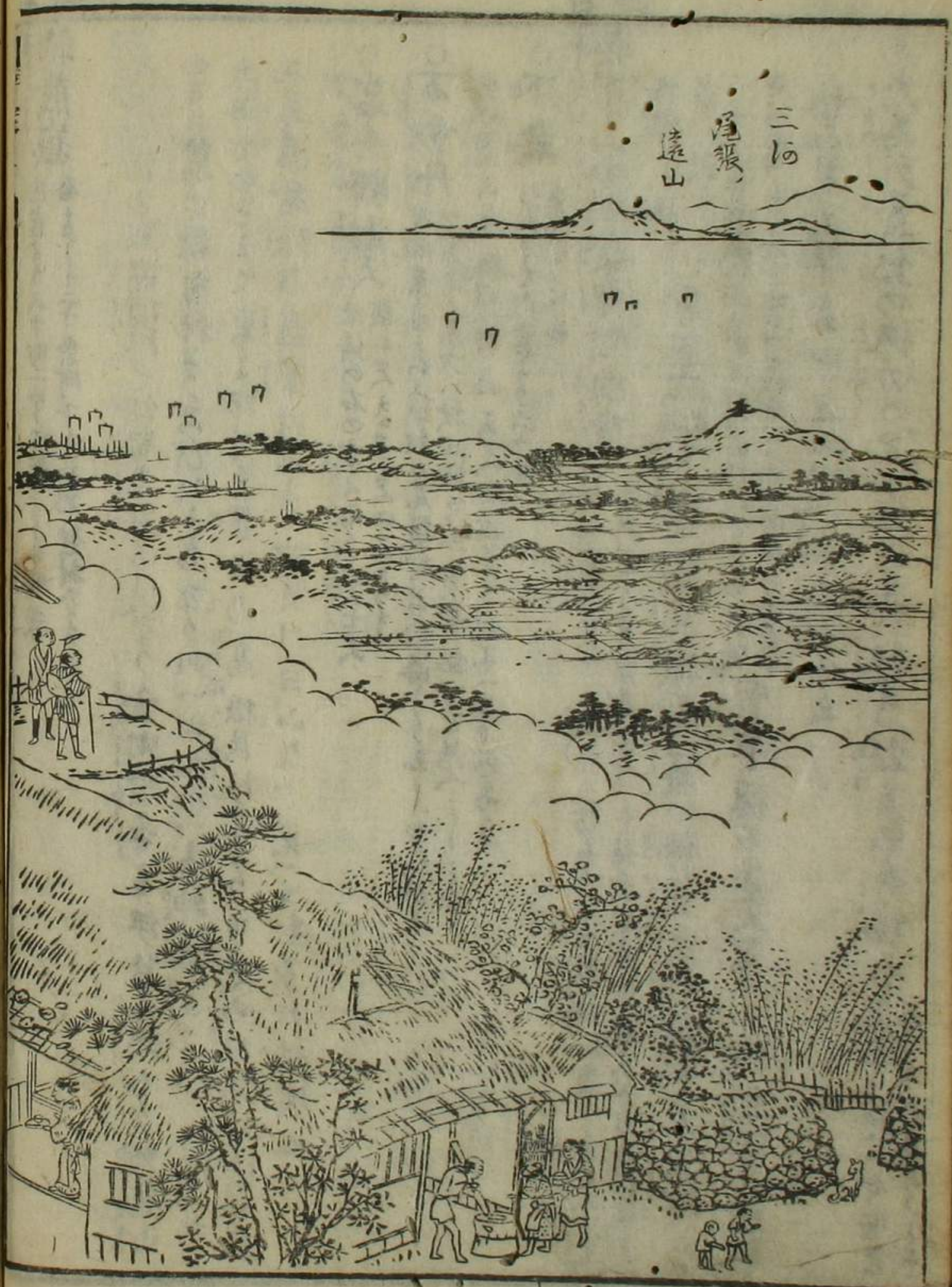
武天皇天平年中此不(安)と云
武天皇天平年中此不(安)と云

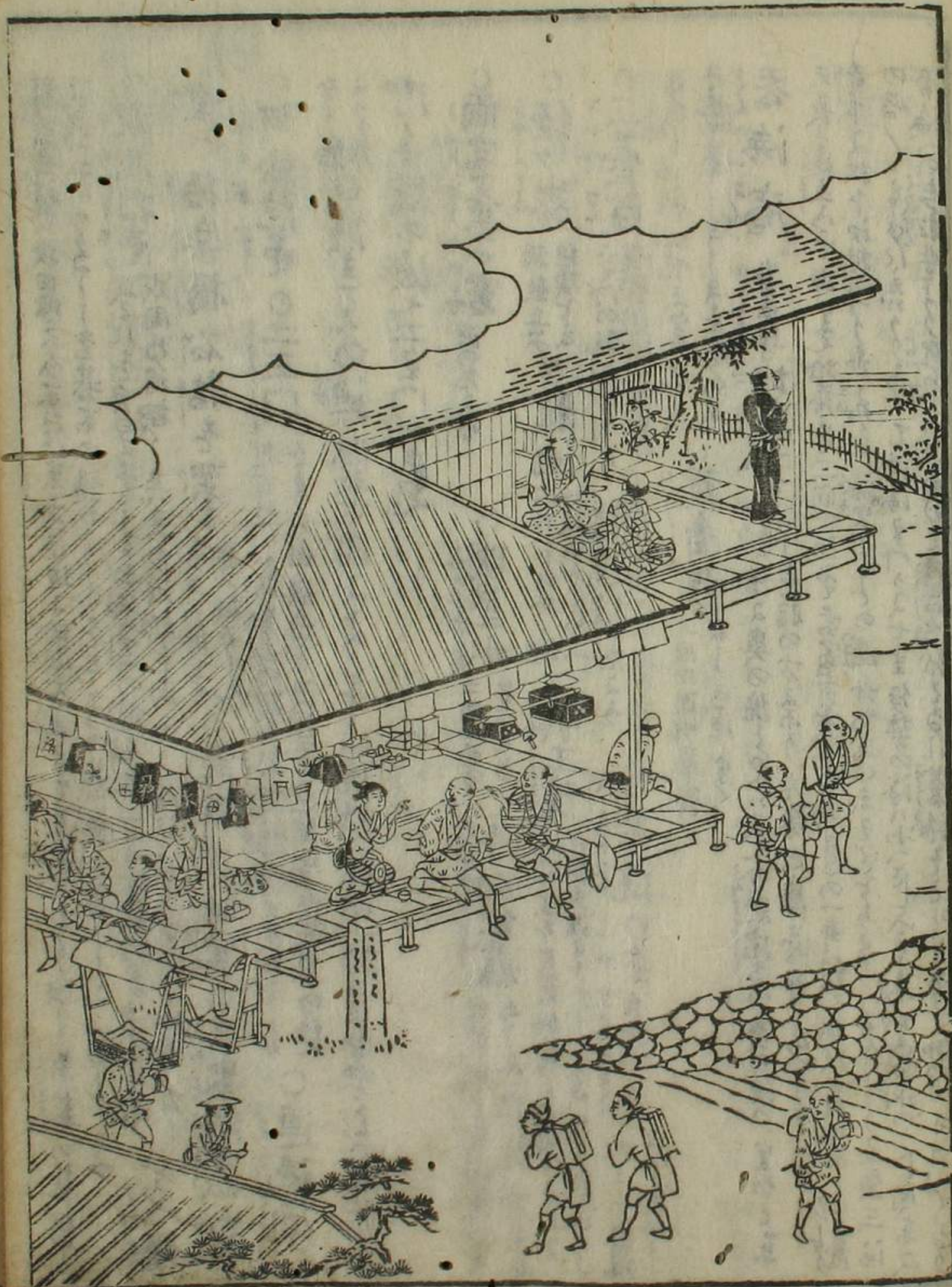
龍馬義智の佩刀 此の其の證を教まの奇物なり
龍馬義智の佩刀 此の其の證を教まの奇物なり

楠部くすのべ休やすみ



三河
尾張
遠山





蘇の基盤は秋田城より石橋に渡り其制巧なり但一草蘇の基盤に
て於て其の多し其基の蓋をかりてをこころの其蓋と異なりつゆ
○求用持事 求用持事其の多し其基の蓋をかりてをこころの其蓋と異なりつゆ
○堂 松橋石橋を架る 首の板をいへ 熊野三社堂 又安地蔵堂
○阿弥陀寺 二王門 熊野此門は勝峯山の額を御舞梅隱が書きけり
○連珠橋 正
かまの池 正
○正の池 正
○正の池 正
○正の池 正
○正の池 正

○兩室童子宮 此の元も
○明星水 二面巨面の
○手向地藏 明星水と吾海流の
○經ヶ峯 胡姥岳の
○龍池 六月一日の外人の
○明王院 法皇宗不勅明王
○三基院 龍王の神
○与樂院 奉
○追地院 奉

○吾海庵 本尊地藏菩薩 傳之奥の流るるの池金剛院の奥の流るる一里あり
○觀音院 二面巨面に明星水の
○長建寺 禪宗之池
○観音院 二面巨面に明星水の
○与樂院 奉
○追地院 奉

○藥師堂 吾海庵の
○涅槃塚 芭蕉公羽の塚
○稲荷社 石
○舍利堂 天竺佛牙の舍利あり
○七社社 奉
○閑山堂 奉
○東岳和南
○石城山 水松庵
○後空蔵 深空大居士

又この付にだれたるものも
○稲荷社 石
○舍利堂 天竺佛牙の舍利あり
○七社社 奉
○閑山堂 奉
○東岳和南
○石城山 水松庵
○後空蔵 深空大居士

▲毛より回廊をまわると二王門へ出る又回廊をまわると後右のなるん
○稲荷社 石
○舍利堂 天竺佛牙の舍利あり
○七社社 奉
○閑山堂 奉
○東岳和南
○石城山 水松庵
○後空蔵 深空大居士

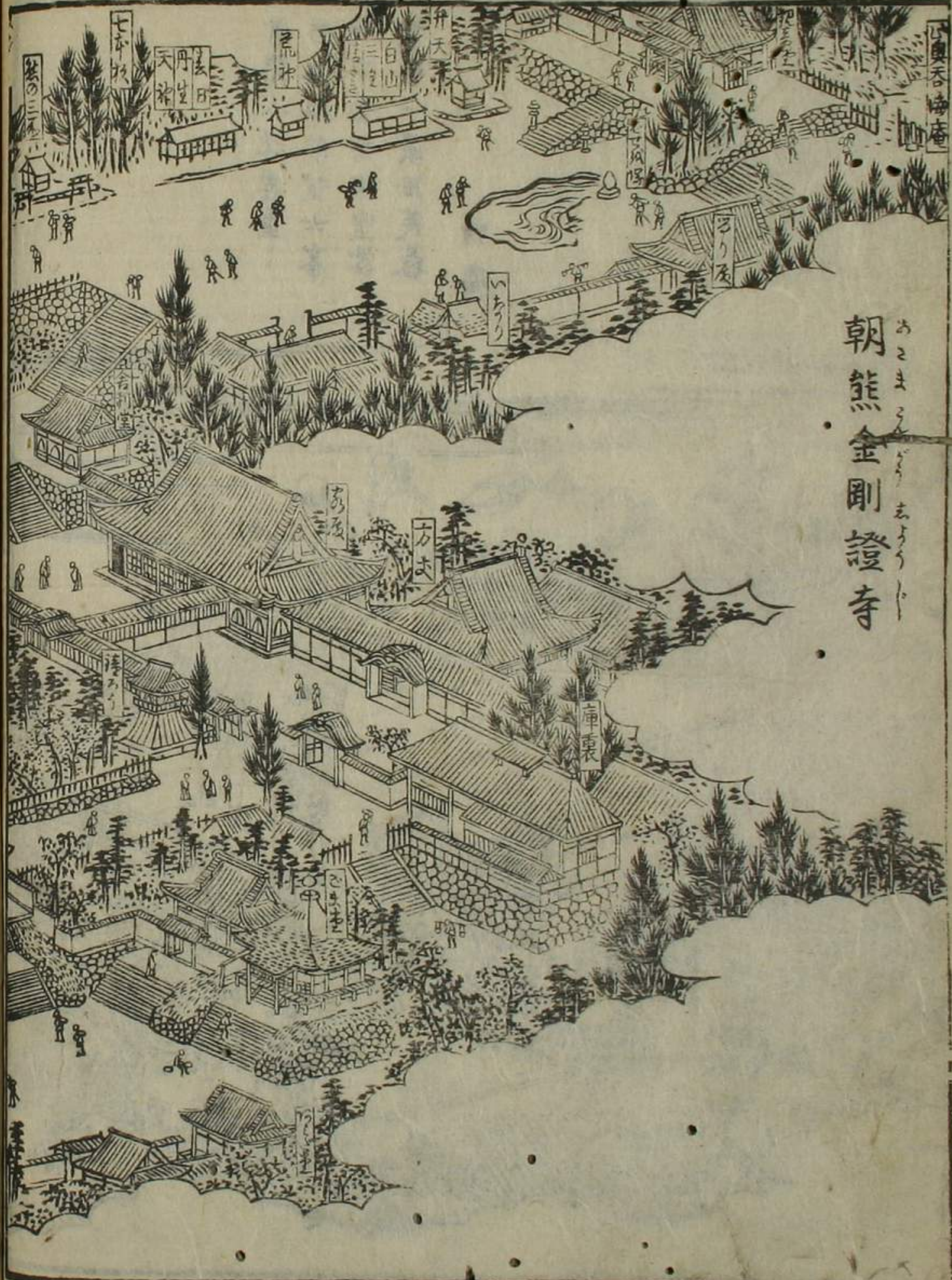
石城山 水松庵 朝熊村 此境内に秋田城之安室墓あり高乾院殿奉持
後空蔵 深空大居士 安部実孝入道日記より是は今奥及社

朝熊奥
吾海庵
富士見臺



曾聞人說思重、
吾海庵前望士峯
四十由旬半空雲
雲間一朵玉芙蓉
村庵





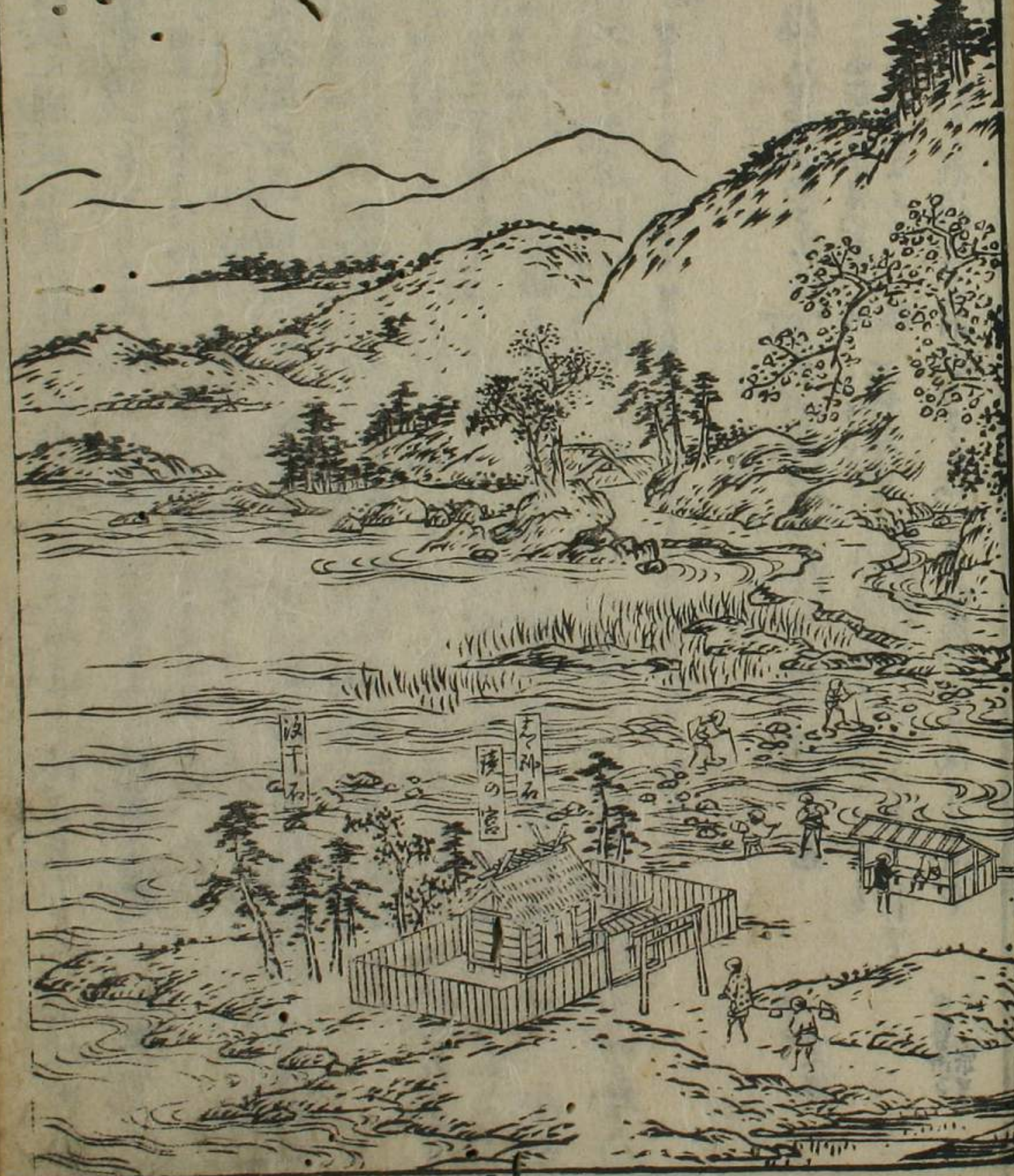
朝熊金剛證寺



其二

宇治より下条石上
六十所

鏡の宮



小朝熊社



赤坂村

國家の祖國政不直の罪を蒙り此不に死に終らば今其國家より祀奉料を考ふる其塚ハ五輪之塚を入るに致道又達一に録書乃名あり此不に幾多位法いしや息女と誓ひの法名に去帳あり

○同寺に福原右馬助墓あり此碑高サ四尺余横二尺身首仰り文字之也一任殿順積道蓋禪定門濃州大垣城至福原右馬助慶長五年十月二日心誓一諾居士家臣福原喜三郎。又真得如珍居士家臣名字不明碑二有

△船越村西の河に小橋と渡あり右の河に二尺五寸之壱つ田村あり山田之船越村をこえて一守田村あり右の河の中を右の河に東麻海村あり

小朝熊社此社にあり 儀式帳より祭神橋大乃自命苦志神船越水神三座也

今、櫛王命大歳神大山津見命を加へ六座とて内宮撰社二十四座乃其一也 寛文十年大宮司長船越長田をりて再興ありしなり

所名

去風又岩根のささづき浪の若らる船越のふ船越のふ

船越小朝熊の宮の東 名 橋本里此も船越村に属せり今も

船越船越村の東 所 橋本里船越村の東今も地名のこれ

未本 いづせんかたは海ありあらかしるるも此のふの代や

宗義

所名

船越船越村の東 名 橋本里此も船越村に属せり今も

船越船越村の東 所 橋本里船越村の東今も地名のこれ

未本 いづせんかたは海ありあらかしるるも此のふの代や

宗義

船越船越村の東 名 橋本里此も船越村に属せり今も

船越船越村の東 所 橋本里船越村の東今も地名のこれ

未本 いづせんかたは海ありあらかしるるも此のふの代や

宗義

船越船越村の東 名 橋本里此も船越村に属せり今も

船越船越村の東 所 橋本里船越村の東今も地名のこれ

未本 いづせんかたは海ありあらかしるるも此のふの代や

宗義

船越船越村の東 名 橋本里此も船越村に属せり今も

船越船越村の東 所 橋本里船越村の東今も地名のこれ

未本 いづせんかたは海ありあらかしるるも此のふの代や

宗義

所名

船越船越村の東 名 橋本里此も船越村に属せり今も

船越船越村の東 所 橋本里船越村の東今も地名のこれ

未本 いづせんかたは海ありあらかしるるも此のふの代や

宗義



歌 占
 俗信は三津村の住家改
 事 楽 河 石 なる と 修 人
 本 樂 凡 祖 と なる こと
 され ぬ 浮 曲 著 他 せ
 修 人 も 三 人 志 志 家 改
 と 凡 々 其 其 著 志
 志 著 志 著 志 著 志
 の 途 途 途 途 途 途
 著 志 著 志 著 志 著 志
 日 の 綴 成 引 我 子 幸 幸
 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸
 物 物 物 物 物 物 物 物
 毛 又 修 勢 又 日向 の
 事 後 とも 修 志
 事 後 とも 修 志

山見原村 後合のこゝ入の村三津村のついでなり
尾の寺の西の物産は後合村流儀の縁に付てよきものも多し川合のふれは多し
新古今

○西の法師の回歌 西の法師の回歌 寺ありしは今日も西の法師の回歌
谷 谷の西の法師の回歌 寺ありしは今日も西の法師の回歌

此の溝口村の処なり ○集人古墳 後合の西川をさよひ
里人此の集人古墳と云ふを世に伝へて長池村集人と云ふ者死せし墓と云ふ天文の記
村の禪師の姓は則法師二見よと云ふ

三津 羽集のついでなりと山田のついでなりと云ふ
此村の中は家次が末弟の村某と云ふ
が里の寺ありて此の寺に在りてあると云ふり 俵勢三郎が末弟の寺と云ふの
を傳来と云ふ寺の末弟三津と云ふ

此の寺ありしは今日も西の法師の回歌
いづくもまゝの寺ありしは今日も西の法師の回歌

此の寺ありしは今日も西の法師の回歌
いづくもまゝの寺ありしは今日も西の法師の回歌

いづくもまゝの寺ありしは今日も西の法師の回歌
いづくもまゝの寺ありしは今日も西の法師の回歌

所名

五峯山密厳寺 山田の系村 本尊十一面觀音坐像佛通禪師用基 五峯と云ふは
五峯と云ふは五峯と云ふは五峯と云ふは五峯と云ふは五峯と云ふは五峯と云ふは五峯と云ふは

三津浦 三津の濱 舟口 舟口は三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは
三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは

三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは
三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは

三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは
三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは

三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは
三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは

三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは
三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは

三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは
三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは

所名

濱 濱の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは
濱の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは

濱の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは
濱の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは

濱の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは
濱の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは

濱の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは
濱の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは

濱の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは
濱の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは

濱の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは
濱の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは三津の舟口と云ふは



所名

鷺島

一二町程の島の島 一町に方程の島と島の形 ○やどりが島の島 一町に方程の島と島の形 ○丸山 はる

任勢三郎義盛宅地

三津村より 此の林蔭なる石院とて寺の竹林は 義盛宅地

立石

立石のまゝの村あり 立石のまゝの村あり ○とさう岩 立石のまゝの村あり

堅回社

立石村から 立石の傍にあり 糸林依見都比女命一寺内宮末社の

音無山

此名不出國は二ツの二ツの外宮神社の二ツ二ツの二ツ

二見の青雲の鴨長明が任勢記は

二見の青雲の鴨長明が任勢記は 二見の青雲の鴨長明が任勢記は

見頼て富士の山のうらぐらぐ良みあつて甲斐の白根信濃のこころあり

又濃尾張のこころあり加賀の白山も乾き多度のは松麻の三ツ子

山西は布引の山あり伊豆の山あり名もまはるし船越山志摩國のふか

船越川を隔て置川の横根とてあり其山の西のまはるし鏡の宮神はまはる

海山も遠みんを海でつたりん

海山も遠みんを海でつたりん

海山も遠みんを海でつたりん

海山も遠みんを海でつたりん

海山も遠みんを海でつたりん

海山も遠みんを海でつたりん

海山も遠みんを海でつたりん

海山も遠みんを海でつたりん

海山も遠みんを海でつたりん

海山も遠みんを海でつたりん

海山も遠みんを海でつたりん

海山も遠みんを海でつたりん

海山も遠みんを海でつたりん

海山も遠みんを海でつたりん

海山も遠みんを海でつたりん

海山も遠みんを海でつたりん

海山も遠みんを海でつたりん

太夫松

太夫松のまゝの松あり 太夫松のまゝの松あり

松や何れぬ風やひしの月をくぐりて青かき山

松や何れぬ風やひしの月をくぐりて青かき山

松や何れぬ風やひしの月をくぐりて青かき山

松や何れぬ風やひしの月をくぐりて青かき山



世
三郎義徳
見
後を

所名

一 〇山田より二尺の順路
河崎 津田村 龍之山田より二尺五石と二里
此地毎日魚市あり民屋廣く其賑一

〇河邊里 河崎の
右なる

とむ人やちれいまた集らん河辺の里は賑ふる那

荒木田 尚長

二 〇茶屋 河崎の裡邊より茶屋あり又山田より西より小茶屋を経て裏なるもあり

黒瀬 二尺茶屋を右の森の内は社あり此村の氏神は橋端公を祀るなり

常相子 宮の傍 南都興福寺の橋とい種あり其実まで小の橋云昔真福寺の橋
毎冬王二真なるふ此実を求めて代りとなりて下されり

とむらひの俵勢はなる人神ははまきとたより賑ふる花柑子哉

按る其然ふの深りかろふ一此方の善者大僧心の油にして慈念の天右の庵に之此方の
柑子人の送りしなり一とん濃なるべし。諸兄の母の縣は養老郡三子代とて俵
勢の人かろふは又いふに宮井柑子のたねを橋の先受かるはほめて法見は法子の茶集見と
す

聖武御製

通村 汲合より運來す 住者よりけり此に樂人住居せり門の改より退

燃して申樂とるなり 住者三座の樂の勝回。天王。和を之勝回。此村はあり和を
一と持てありて今も申樂一座ありあるの者少なり

箕曲氏社 西南の方より二尺へ移大橋 乞を流社とい洪水を流とく安止

〇天神社 菅原相の靈を祀りてこれを祀はの天社といふ

非社村 あり海より橋より一本十貫松といふ今も有り 秘傳の書

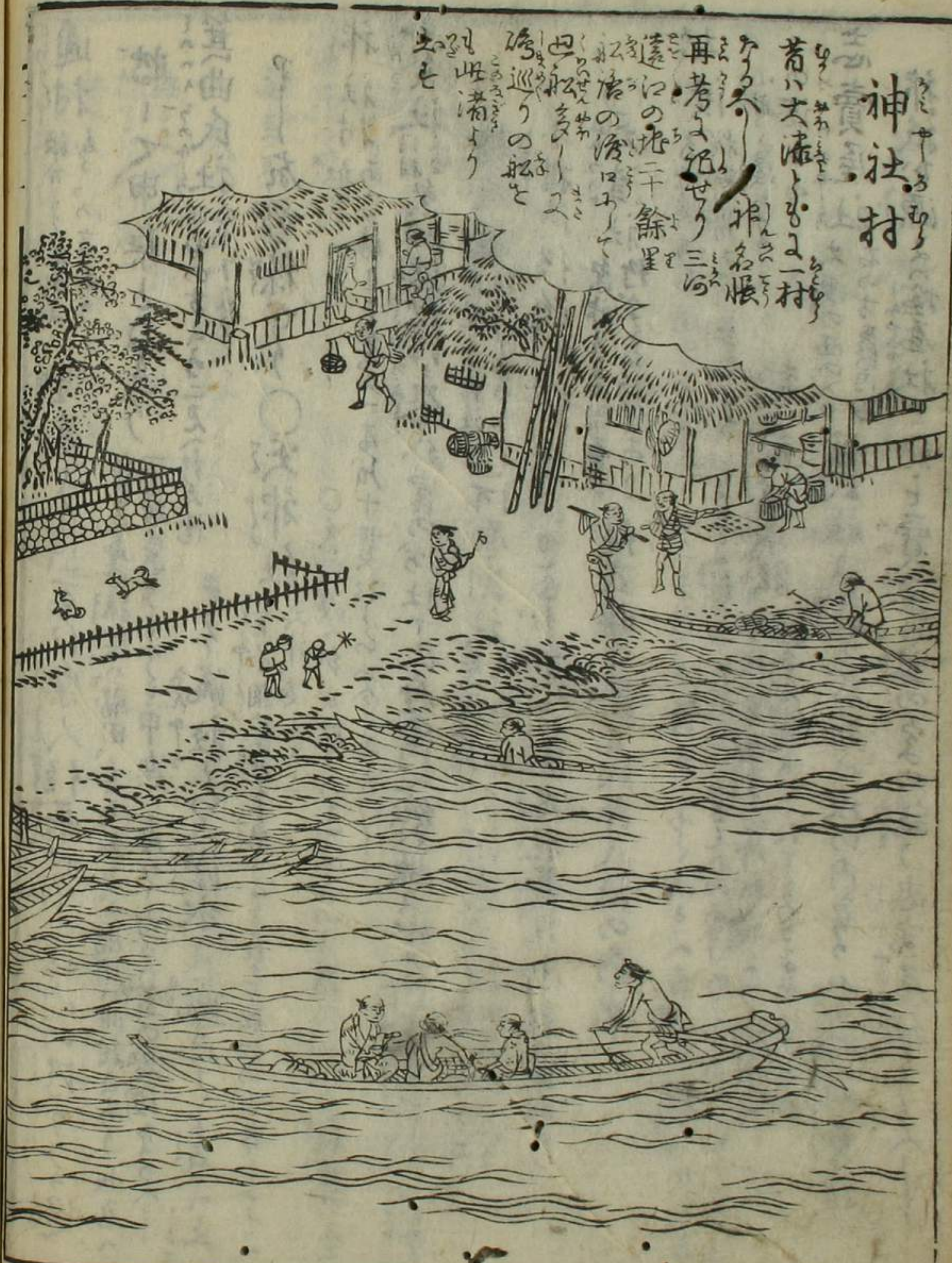
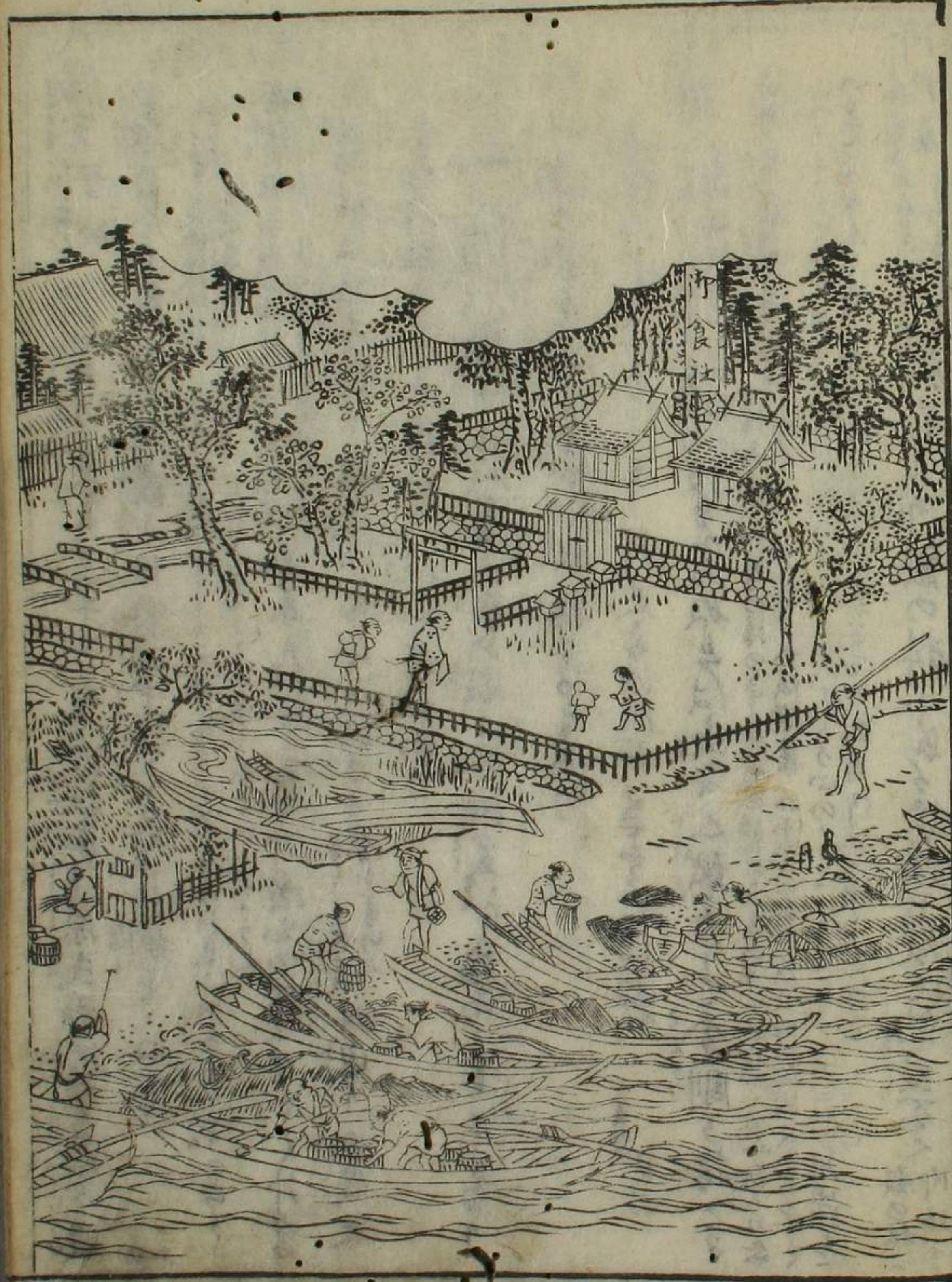
〇檜尾橋 川崎より津社 〇河原園社 祭は若

〇河原大社 新用村より 〇文津社 祭は子並帆夏命 後式帳に載る式外八社の内也

大湊 津田村 龍之山田より二尺五石と二里 此地毎日魚市あり民屋廣く其賑一

志賣屋社 大湊の西の入口 後式帳に載る式外八社の内なり 祭は海童神

神祇を源とい垣屋社と記と賣字の家の字の誤り 志賣屋社なり



八幡宮 大・ふしの 川の北より築きたる事を去るに社家清原氏両宮の支配を受

とす とす 糸を敷いて叙爵を任勢國中よりかた例とす

今一色村 二見郷をさぐり 河村をさぐり大津といふ川は小松とて

高城濱 非は村の北に二見の郷の内 毎年九月十三日御濱の神事とて外宮

孫且此濱み後を修し後潮をあひく清まる 修し長官 此辺より西太

非宮の御垣をさぐるの濱あり渚みを居あり

お紙濱 立石傍より 郡中の人父母の畏の服を対置に焼く

或此濱の波を汲そめておし浴湯ともあり

清渚 立石より今一色村の辺 波見らぬは虫よと紙みして令剛と掃と日

より立石傍みむ 後馬集 又後撰集 抄 やけの ひ 又修勢圖 又 まり

清渚殿 立石茶屋所々西へ 大神宮御饌の料とあり

所名

所名

所名

あり あり 両宮東西御室殿を摸して造より糸津の御名に古書に見
えど毎月御垣を掃日よけし不より下馬石丸辻を記して良
鑑より宮地への入口は御垣掃とあり他の用は雑来せしを
御垣乃とて御垣役人二見より外宮まで途中にまはるを掃

名寄

二見より神さび立石御垣殿 代 収浪うけりて 長明

立石傍 江村人形舟の港の海中に石あり 此石の藻と湯

いきて清渚 清渚と清渚と 清渚と

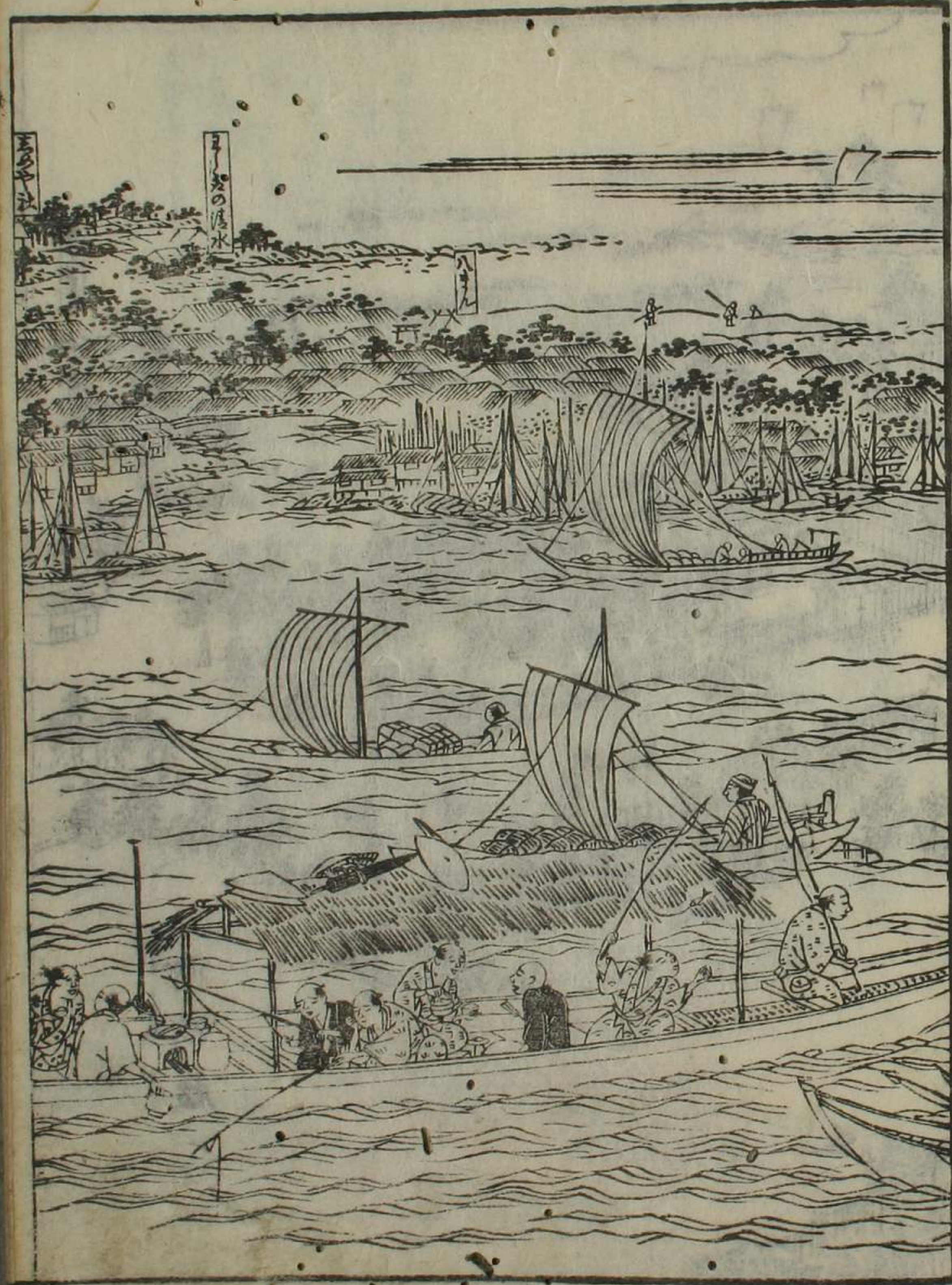
三狐津社 此社のかたに穴ありて 西村

二見浦 此浦をさぐり 七郷の要人七々江村三津山田原溝口

を南三郷 をさぐり 是内宮飲之屋村西村出口と云

所名

所名



米
大湊
津波の内字
二回大湊の
と列きう
人
お祝新



長明春法記
 二見の浦(如杉)ノ
 小松(中)ノ(杉)ノ
 社ノ(杉)ノ(杉)ノ
 如(杉)ノ(杉)ノ
 御(杉)ノ(杉)ノ



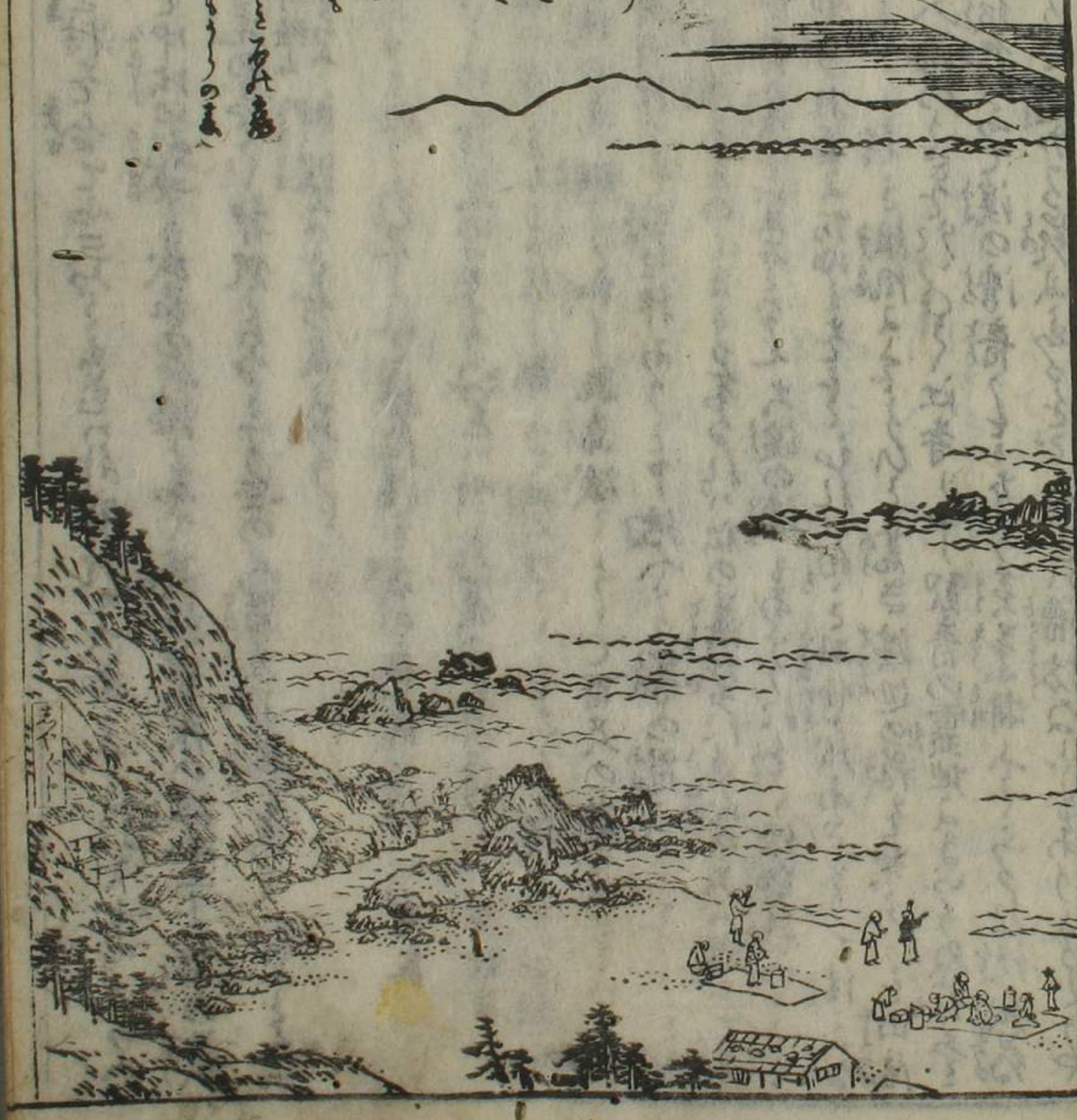
御(杉)ノ

二見浦

二見の浦は瀬波の
辺りの地名を此に
二見の浦と云ふ
二見の浦は瀬波の
辺りの地名を此に
二見の浦と云ふ
二見の浦は瀬波の
辺りの地名を此に
二見の浦と云ふ



二見の浦は瀬波の
辺りの地名を此に
二見の浦と云ふ
二見の浦は瀬波の
辺りの地名を此に
二見の浦と云ふ



二見の浦は瀬波の
辺りの地名を此に
二見の浦と云ふ
二見の浦は瀬波の
辺りの地名を此に
二見の浦と云ふ

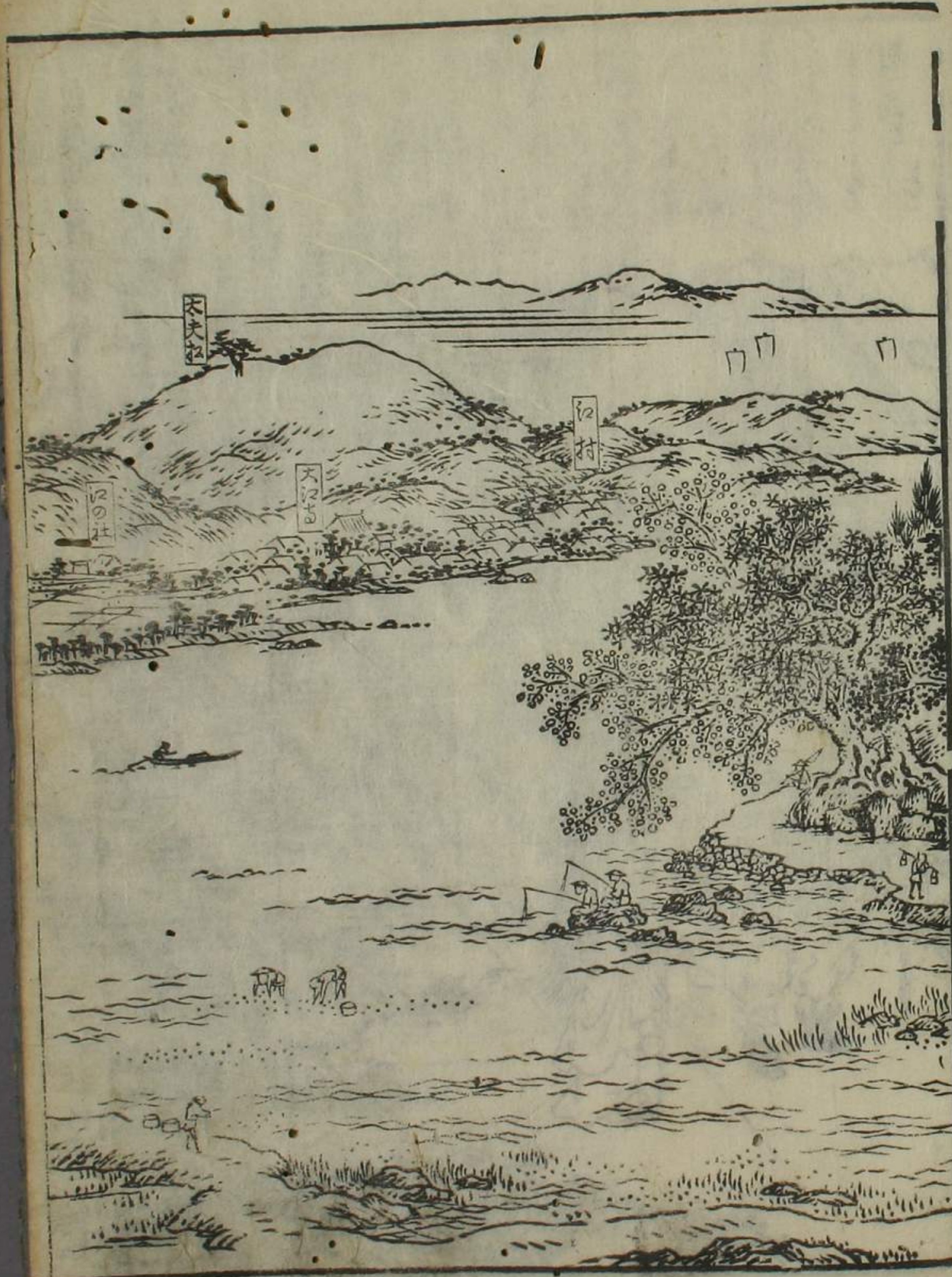
の終ふ今一む村を合て山三つと云る外官外之御とてこれと七つと云
四つと云る一と中法の紀考武家の館とて其後寛永の法今一む村の長
惣請て終る元の事と云く神代といふ事と云る人皆立石橋をのこ二刃と云
信く二刃と云る沖波と云るよしなり

拾遺集
まよかかこころと云るは神代と云るの夜は月 定家

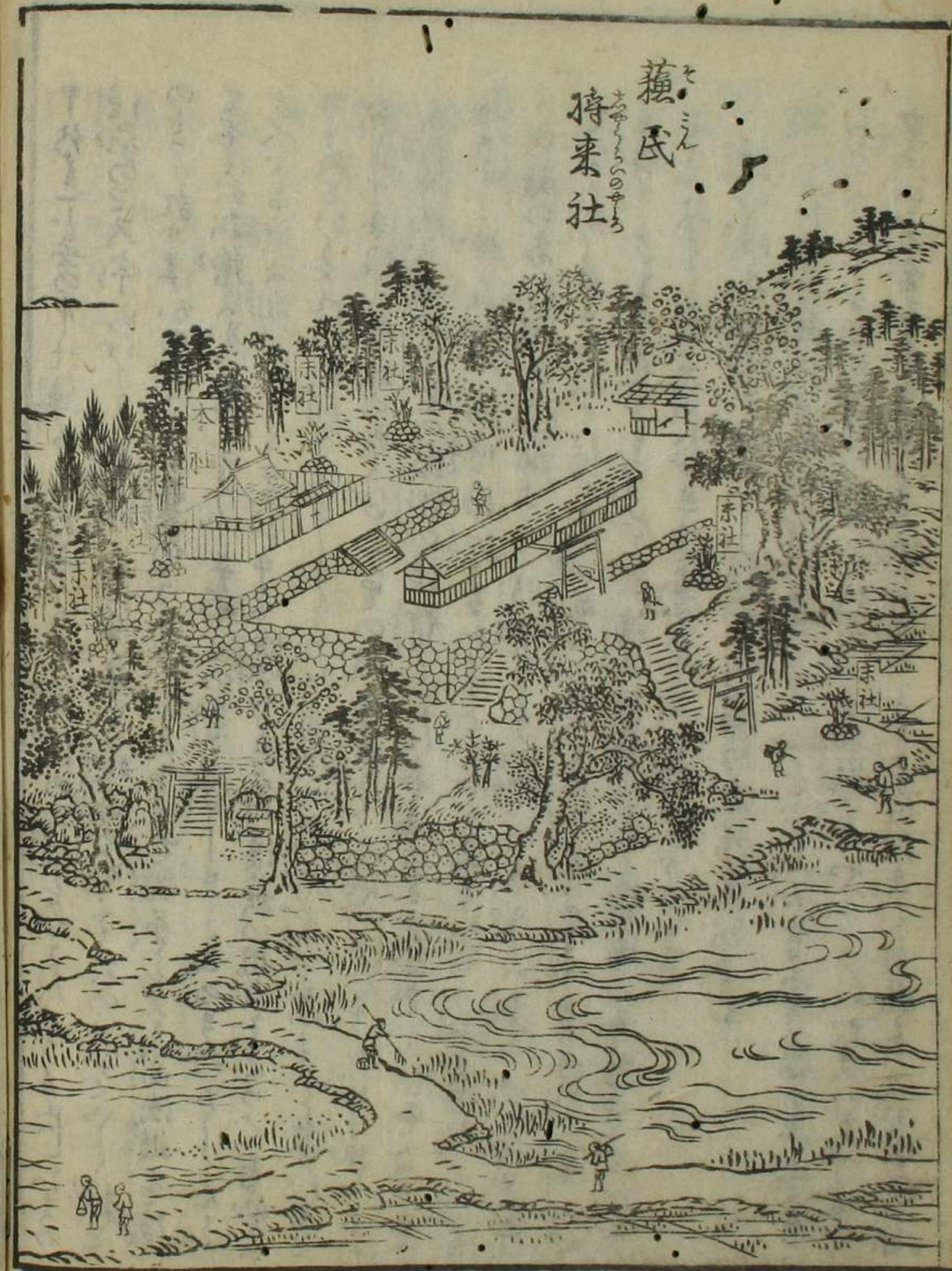
金太
五つげと云るの山本のもうつふが明於其の夜の月 源親房

系譜記云云其浦の系を足敷り都て修人といふ事と云る
助くして万橋のま烟りわく流島磯とて百尺の巖月と云る
と世浦は佐賀明神とて古く神ありと云へり巖の麓と云る
とあり沖津浪あまのまをわかれ松の落葉にま向のるに
神さびり俗みの実をいふと云る大波の浦と云るに
ちるうふまやらぬ浦と云るをいふと云る雪風あまをいふ
遠くつと云るは入海のつと云るは寺と云る観音の聖地と云る
のちる石橋と云るは沖の津音と云るをいふと云る
ま竹み携りて遠かるるぬみと云るをいふと云る僧坊と云る

中法と云るの中法靜かうぬうりて禪後の止位と云るなり
信の旧又字と云るはを焼くげずと云る漁舟のかが火の波をや
のまに中界かの寺より舞臺のうらうらと云るなり
てあり松繪と云るはかろと云る一先やこの音と云るなり
と云るも誰と云るはともと云る中界霞と云るは門後萩の風と云る
押りぬるかろとの波向をいふと云る浦辺の真実と云るは系と云る
局もが海門と云るは帆の帆と云るは万里の波と云るは海と云るは
ふみの涯と云るは雲の波烟の浪と云るは海と云るは海と云るは
ゆかり 作良彦と云るは鳴海と云るはかろと云るなり
この灘の名に云るは波と云るは波と云るは浪と云るは海と云るは
て雲と云るはぬと云るはたれと云るは依麓と云るは母と云るは
かろと云るは里の名と云るはつと云るは浦の地景と云るは此浦の奇
あかすりと云るはつと云るは老ぬるぬと云るはつと云るは
光の浪と云るはつと云るは二刃の浦の名と云るはつと云るは
破と云るはつと云るはつと云るはつと云るはつと云るはつと云るは
ちかたりと云るはつと云るはつと云るはつと云るはつと云るはつと云るは
宮川の奇合と云るはつと云るはつと云るはつと云るはつと云るはつと云るは



藤氏
将来社



今も此屋まの日に
 何事もなからば
 送るより
 公の根元曰まふ蓋
 鳥の即根元入
 年改天らてて
 天作もや之南流
 の女とて娶て八五
 とせ世はひた
 の其女とて遊ませ
 流の（一）月三三南流
 とのハ流球圍の
 やく剛義巨且
 流球人かろへし今
 流球の各に流球
 流球の各に流球
 大王の女
 流球の
 流球の



このどのこ
 まふ家血鳥尊其種民よ百とと
 流球人かろへし今
 流球の各に流球
 流球の各に流球
 大王の女
 流球の
 流球の



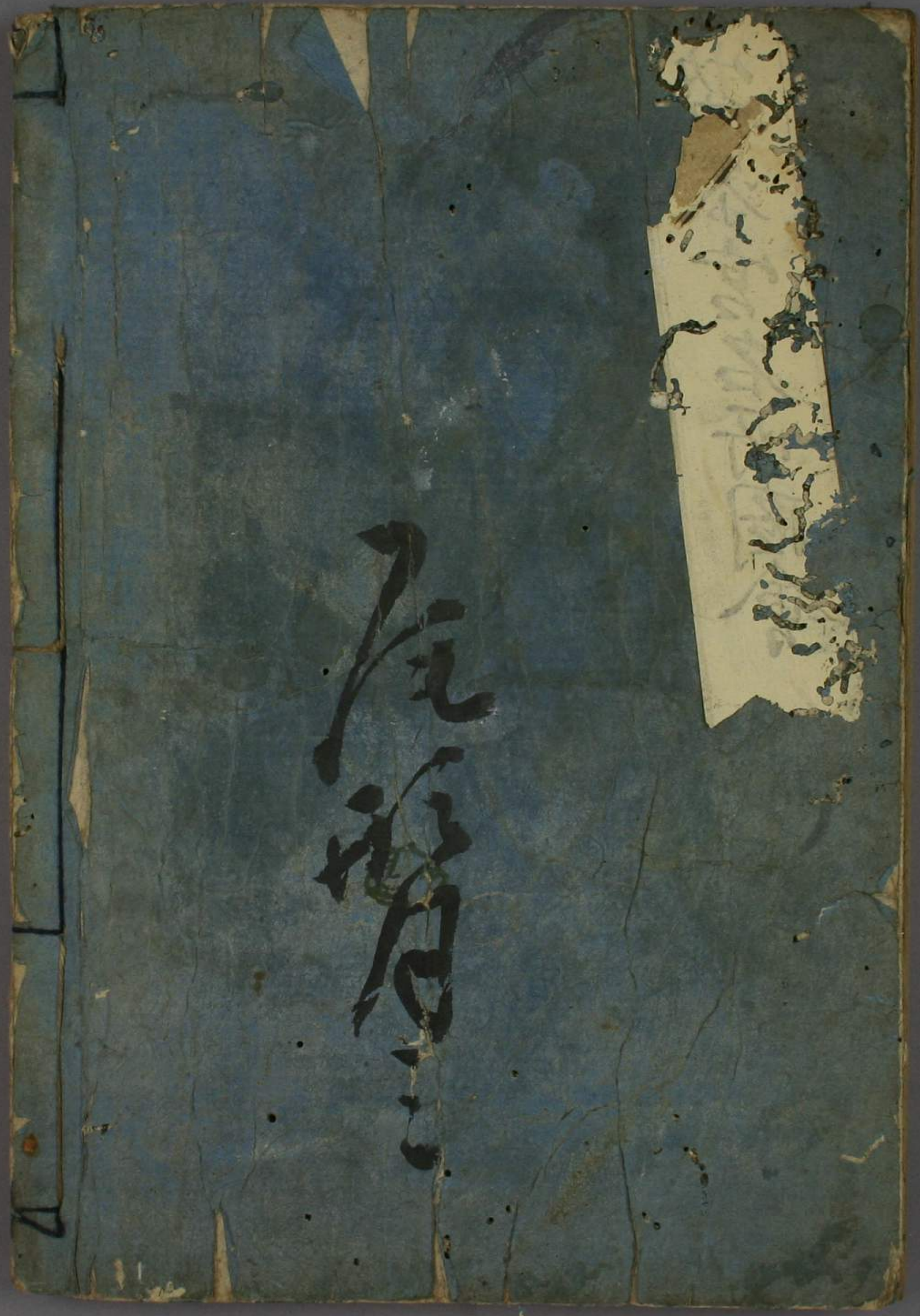
官も此風なまらび一寺の僧俗も彼路城をさすひたりし今も破垣
の跡もあはれぬるたふもあはれぬ下界

附言 十一月十五日の夜子刻文湊二見浦の沖波子に船一しつと破れぬる
早波の湊二十日海津河川の沖波あり肥後國志岐守六月廿七日初日の事と
其時晦朔の日はありて燈日ありてされば波は三月初日なり三月廿一日なり

興王石 志岐守の御遺徳を記すに三月廿一日なり三月廿一日なり
母懐其外種を石に記して此辺二見石とて和名白き海石の事なり用は中
は村 志岐守の御遺徳を記すに三月廿一日なり三月廿一日なり

潮音山大江寺 真言宗本尊觀音二王門あり
江神社 江村の巽 系 神長口女命大歳神祖神宇賀神魂命三座之内宮傍
社二十四座の内之 江村の西と云

附言 小皇權少源國水郷の家集より二見破却のおよむ事因九なり馬をさされ七羽の事
一説にやうれはとらふ所つちの破れぬるがつ甲斐とて一説にとらふとて一説にとらふとて
五の破れぬるがつ甲斐とて一説にとらふとて一説にとらふとて一説にとらふとて



元城

Fragment of text on a torn paper label, likely containing the author's name or a library stamp, though the characters are illegible due to damage.